



学校だより

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

令和4年2月28日

3月号

横浜市立日枝小学校



「また 春がめぐってきました」

校長 住田 昌治

早いもので、今年度も最後の月を迎えました。3月と言っても、まだ朝夕は気温も低く、コートにマフラー・手袋は手放せません。考えてみれば、真夏は、風通しのいい服を着て、日陰を探して歩き、真冬は、コートの前をきちんと閉め、マフラーに手袋までして、日向を探して歩きます。夏には冬をうらやみ、冬には夏をうらやみます。最近、その中庸、春と秋が短いように感じます。温暖化のせい、暑さと寒さが印象深いです。今年の各地での大雪は温暖化も影響していると言いますから、地球は大気で繋がっていることを実感します。雪のニュースを聞くと思い出すことの一つに「葉っぱのフレディー」ーいのちの旅ーという絵本があります。ロングセラーの読み物ですからご存知の方も多いと思います。

ストーリーは単純で、葉っぱの一生です。春に芽吹き、夏は木陰をつくり、秋に紅葉し、雪の冬に散っていく。最後に残ったフレディーという葉っぱが雪の重みで散っていくのです。当たり前なことなのですが、でも、それだけのことではないのです。この本は、実に大切なことを私たちに教えてくれます。散った葉っぱは、土に溶け、養分となり、木に入ってまた春芽吹きます。命はつながり、廻るんだということを教えています。生きること、そして死ぬことの根源的な問いに対する考え方を子どもにも分かりやすく示唆しているのです。

「命は廻る。つながっている。」ということは「命」をキーワードにすれば、社会も経済も政治も文化も教育も…、学校では国語も社会も理科も体育も…全てつながっています。自分の可能性を広げ、ワクワク楽しく豊かな子どもの時期を送るようにし、持続可能な社会の創り手を育てていきたいと考えています。これからも、本校の教育活動へのご理解とご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。

繰り返し巡り来る春、3月18日（金）6年生113名が日枝小学校の誇りを胸に卒業します。コロナ禍で大きく変わった教育活動の中でもたくましく成長しました。卒業が大きな節目となり、自然の営みの中で生きる命を実感しながら、さらに伸び続けることを期待しています。そして、我々大人は、子どもたちの成長を喜ぶとともに、この子どもたちが大人になった時、今と同じかそれ以上の豊かな生活が送れるように、持続可能性への意識を高め、子ども達とともに問いを立て、考え、話し合い、知恵を出し合いながら生活をしていかなければなりません。

「葉っぱのフレディー」ーいのちの旅ーは、次のように結ばれています。「”いのち”は土や根や木の中の 目には見えないところで 新しい葉っぱを生み出そうと 準備をしています。大自然の設計図は 寸分の狂いもなく ”いのち”を変化させつづけているのです。また 春がめぐってきました。」

2022年度、続くコロナ禍で保護者や地域に皆様には、学校の対応についてご理解ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。今後もコロナ前に戻ることはないと思います。新たな学校教育のあり方を考えて進んでまいりますので、引き続きご支援ご協力いただけますようお願いいたします。一年間、ありがとうございました。